

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 神学部の専門領域〔聖書学（旧約聖書学・新約聖書学）、歴史神学、組織神学（宗教哲学を含む）、実践神学〕とその内容について学部の内外に周知を図ると共に、神学部の理念・目的との関連について定期的な検証を行う。	→履修モデルの作成と公開（WEB等の広報媒体への掲載、履修指導への反映〔心得に掲載〕）	C	C			
2. 上記専門領域を基礎とした履修コース（キリスト教神学・伝道者コースおよびキリスト教思想・文化コース）それぞれの意義付けを、カリキュラム編成に生かす。	→コース名称の変更とカリキュラムの改訂（ともに2011年度までに）	B	A			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
	<p>(理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ ● 理念・目的を設定している ○ 理念・目的を設定していない</p> <p>(理念・目的)          神学部は、「キリスト教の伝道に従事すべく選ばれた者を鍛錬する」（関西学院創立時制定の「憲法」第二款「目的」）ことを理念とし、これに則って、キリスト教神学の基礎と専門領域双方の教育を行う。その目標とするところは、人間を自然と社会、思想と文化との関わりにおいて考察し、そこにある問題を探り出し、今日における生の意味や生きることの規範を見出して、それをキリスト教の福音に基づいて広く他者に伝え、社会に奉仕する人材を育成することにある。</p> <p>神学部の専攻領域は、伝統的なキリスト教神学と、これらと密接な関連をもつ学際的研究領域から成り立っているが、本学部はキリスト教神学を聖書学（旧約聖書学・新約聖書学）、歴史神学、組織神学（宗教哲学を含む）、実践神学の4分科に構成している。</p> <p>さらに2004年度から、神学部存立の理念をより拡大し、社会の要請に応えることを意図して、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想および文化的財に関する学際的な研究領域として、キリスト教思想、キリスト教文化のカリキュラムを設けた。</p> <p>当面の目標は、この新たな分野での人材育成を実現させることであるが、これに加えて以下の点を、教育目標および人材育成の目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の錬成 キリスト教に関する基礎的な知識を修得する。</li> <li>全人的教育による対話能力の育成 少人数の授業によって、学問研究の基礎を学ぶと共に、人間関係を築き、担当教員との人格的なふれあいを通して、人格の陶冶を目指す。</li> <li>健全な社会人の育成 キリスト教全般にわたる基礎知識に裏打ちされ、しかも、現代の社会と人間に対する洞察力を持ち、明確な人権意識を持って、柔軟に思考することのできる専門的職業人を育成する。</li> </ol>

☆

	(説明) 神学部の理念・目的は、関西学院創立時に制定された「憲法」に記されているものを受け継ぐと共に、2004年度よりキリスト教思想・文化コースを設けて、さらなる展開を目指したものとなっており、適切であると言える。また学部(学士課程)教育における三方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)、あるいは付随する施策を検討する際にも常に参照することにより、その適切性について確認をしている。
小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない (説明) WEBサイト上に公開している。特に、学生が Semester ごとの履修計画を立てる際に参照する『履修・学習要覧Webサイト』の冒頭に掲載することで、都度周知され、理解されることを期待している。 また、2011年度に本学部の理念・目的を学ぶことを意図した科目「メソジストの伝統と神学部」を設置した(選択必修科目)。開講は2012年度からとなるが、本学部の理念に触れる新たな機会となると考えている。
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 学部(学士課程)教育における3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)、あるいは付随する施策を検討する際にも常に参照することにより、その適切性について確認をしている。
その他	

《評価指標データ》

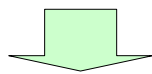
- 本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
- 卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか【基本的な基礎データ】
- 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】
- 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
- 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
- 理念の周知について(1)ー理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
- 理念の周知について(2)ー総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	2010年度には、カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)と、それに基づくカリキュラム・マップを策定した。その過程において、各授業の内容を吟味し、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)に沿った意義付けを検証した。
小項目0.0.3	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとそれらに基づくカリキュラム・マップにおいて、それぞれの授業がどのような意義を持つのかを学生に周知し、計画的な学修を促すための施策を行う。学部カリキュラムの全般については、WEBサイトや『履修の手引き』(履修心得)に記載し、周知を図っているが、十分に理解されているのかは不明である。ポリシーとあわせて認知度上昇のための広報について検討する。
小項目0.0.3	
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価】(2)改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目0.0.1	
	小項目0.0.2	
	小項目0.0.3	
	その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目0.0.1	
	小項目0.0.2	
	小項目0.0.3	
	その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○コースの整備とカリキュラムの改訂は順調に進んでいます。神学部関係者以外の大学構成員においても、キリスト教思想やキリスト教文化への理解が進むことが期待されます。

【学内委員】

○コースの設定、カリキュラムの改訂、および理念・目的の検証は順調に進展しています。構成員への周知については、その検証の具体的な方策を示すことが望まれます。

○学部の理念・目的を履修webに掲載したり、新たに科目を設置するなど、周知するための具体的な取組が着実に実行されている様子が見えられます。

○神学部の理念・目的、教育目標、人材育成の目標はいずれも適切に設定され、記述も的確ですが、大学基準協会が小項目0.0.1の基盤評価として「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」としています。これについて記述することが求められます。

○構成員への周知については、「メソジストの伝統と神学部」を新設されるなど努力をされています。学部生だけでなく、他の構成員への周知や学外への公表に一層期待します。なお、WEB以外の公表媒体についても記述されることが適当でしょう。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 小項目0.0.1における現状説明について、神学部の理念・目的は、「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」として学則で定めているほか、学生が履修計画段階で閲覧するWEBサイトにも掲載し、周知を図っている。